学校教育目標

「夢や目標をもち
チャレンジ精神と思いやりの心に
満ちあふれた生徒の育成」

希 望 坂（北中だより）

第７号　令和７年１１月１２日

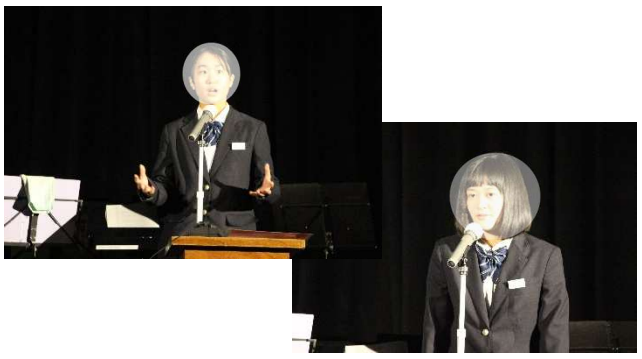
みやき町立北茂安中学校
校長　原田　浩臣
https://www.education.saga.jp/hp/kitashigeyasu-j/

文化発表会

「彩虹（さいこう）～Sparkle Together～」の素晴らしいスローガンのもとで、豊かな心を養い、文化的な表現を創造し、自らの思いを発信する力を身に付けるいい機会となりました。当日は来賓の方々や多くの保護者にも参観していただき、生徒たちも励みになったことと思います。ありがとうございました。

♪吹奏楽部演奏♪

オープニングで吹奏楽部による演奏が披露されました。「ライラック」「ディズニーメドレー」「ＳＮＳバズりメドレー」の３曲を披露し、各楽器の音色がわかるメドレーに楽しい時間を過ごしました。聴き覚えがある曲を元気で明るく演奏し、迫力満点の演奏でした。



♪英語弁論♪

日ごろから学習している英語を使用し、自分の考えを述べる英語弁論に３年の上村樹那さんが「Why I like English」を太田妃莉さんが「The Power of Words」の題材で流暢な英語を披露してくれました。終わった後、鑑賞した生徒からどよめきが起こるほど中学生がここまでよどみなく英語を話す姿に驚きを隠せない様子でした。この姿が全生徒に対し、大きな刺激になってくれることを期待します。二人とも素晴らしかったです、ご苦労様でした。

♪学年劇♪

各学年が、台本から考え、私たち鑑賞者に考えさせる題材で劇を演じてくれました。１年生の「金メダルへの一歩～平成の三四郎、逆境を跳ね返せ～」で北茂安町出身の古賀稔彦さんの物語を演じましたが、噂を聞いて当日は古賀稔彦さんのお母様が鑑賞してくださり、「稔彦が言っていた言葉通りで、本当に感動しました。ありがとうございます。」とねぎらいの言葉をいただきました。

２年生は「昭和百年」という劇で、何でもあって平和が当たり前のこの令和の時代をもう一度考えてみるきっかけを与えてくれる内容でした。

３年生の「ハイホー」は、自分を押し殺して仕事に励む若者が、本当に自分がやりたいものは何か、悔いのない人生が送れているかをテーマにした奥深い劇でした。

♪合唱コンクール♪

学年が上がるとともに、表現のレベルも高くなり感心しました。中学生ともなるとさすがでした！男子の厚みのある歌声と女子のきれいな高音で豊かな合唱にしてくれました。曲想や曲の強弱も工夫されていて聴きごたえのあるものでした。特に３年生の完成度は高く、感動しました。来年度は、１年生も２年生も現３年生を超えてくれると期待しています。

♪作品展示♪

授業で学んできたことを生かした作品やこの文化発表会の為に各学年で制作した多くの作品を見ることができました。国語科、理科、英語科、美術科、家庭科、学習文化委員会からの作品を展示し、また、各学年からも総合で学んだ「修学旅行のまとめ」「職場体験新聞」「白石焼」やたんぽぽ作品展「折り紙作品」、１年生による「古賀稔彦選手が残した言葉」など多くの作品が私たちを魅了してくれました。

どの展示物も学校の教育活動の中で制作されたものです。生徒たちの気持ちのこもった作品ばかりでした。お疲れさまでした。

米づくりと人づくり

最近は「米不足」や「備蓄米」という言葉を耳にすることが多くなりました。ご家庭にも大きな影響を及ぼしていることと推察します。

本校の職員に農業経験者がおり、次のような話をしてもらいました。この方も何かの教育書で読んだそうですが、その内容は子どもの「学力向上や人間形成」は「米づくり」と重なるところが多いという内容でした。

田植えや稲刈りは夏や秋の風物詩として誰しも幾度となく目にしてきました。田植えの後にたんぼに満々と水を入れるのは、保温しないと根が発育しないためであり、併せて雑草の発生をおさえる効果もあります。あたかも、母親が愛情たっぷりに幼児をその手にうだくようでもあります。稲から穂が出ると、今度はたんぼからちょっと水を抜き、羊羹ぐらいの土の状態にして根腐れを防ぎます。水をたっぷりやり過ぎない。つまり親の溺愛（愛情過多）が、子どものわがままや耐性欠如につながるため、そうならないように気をつけることと似ています。さらに、夏も暑い盛りには、たんぼから水を完全に抜いてヒビが入るまで乾かします。このことで、根の活力が増し、根が強く張っていきます。少しばかりの不自由や不足によって、子どもにがまんする力やたくましさ、求める力（意欲）が身についていく姿と重なります。私たち大人は、なんでも与えすぎることがかえって裏目に出て、子どもをだめにしてしまうことに気づいています。そうして、もみに栄養をたっぷりため込み、稲穂が垂れてくる頃、まさに収穫の秋を迎えるのです。

このように芽吹くところから始まり、水田に根を張りすくすくと成長していく姿は子どもの成長そのものといってもよいでしょう。稲は夏になると何度か人為的な断水を経験し、ひからびた土地に根を張ることを覚えます。発根力です。水分を求め、地中に深く深く根を張り、自分自身を丈夫にしていくのです。子どもたちにも、稲同様に、得られる知識をどん欲に吸収し健やかに心身を育ててほしいと願います。きっと、子どもたちには、学習面において、あるいは部活動の面において、その他様々な場面において、逆境と呼べる苦しい時期が大なり小なりやってくるかもしれませんが、ピンチを乗り越える人としてのしなやかな強さを手に入れてほしいと思うのです。

最後に、「稲」は成長の集大成として実を付けていくことになります。親や教師は、より多くの実りが得られることを願い、様々な支援をし、子どもたちの実力の結晶、結実を待つのです。

大変心に響くいい話をしていただきました。「米」という字を分解すると、「八十八」になり、それは「八十八ものたくさんの手間がかかって、ようやくお米は作られるのだ」とよく言われます。子どもを健やかに育むのにも手間がかかるのは当たり前で、親や教師は同じベクトルで、手抜きすることなく子どもの成長を見守っていきたいものです。そして、子ども自身にも、その成長の陰には、自分の努力のみならず多くの人の手助けがあることに気づく子どもたちであってほしいと願います。

稲刈りがほとんど終わったこの時期ですが、実りの秋には、北茂安町のいたるところで黄金色の絨毯（じゅうたん）の上に無数のトンボが飛び交い、その羽が夕日に反射してキラキラと輝く幻想的な風景を見ることができました。「実るほど頭（こうべ）を垂れる稲穂かな」・・・どうか謙虚さ、感謝の心を手放すことのない子どもたちが育ちますように…

避難訓練を実施しました。

１１月５日（水）に秋晴れの下、避難訓練を行いました。給食室より火災が発生したと想定した訓練でした。生徒は真剣に訓練を行い校舎から上履きのまま逃げ出し、運動場に集合し、人員点呼ですべての生徒の安否を確認するという手順で行いました。特に今回は、昼休みに行い、生徒が自由に行動している中で、火災が発生したと想定しました。生徒は教師の指示でなく自分で判断し最適な避難進路を自らが選び避難するという内容でした。終了後、私からの講評で『この訓練は、あくまでも避難の基本行動を身につけるもので、必要なのはこの訓練を応用することです。地震や火災は授業中に起こるとは限りません。休み時間や昼休みの時は先生が教室に不在かもしれません。学校だけでなく遊びに行ったショッピングモールで起こるかもしれません。その時は、自ら命の安全を最優先した行動を判断する必要があります。「先生が先頭に居ないと逃げ出せません」では訓練が身についたとは言えません。しっかりと自分で判断・行動できるようになってください。』と話しました。

その後、鳥栖消防署の秋吉さんから消火器の使い方の説明があり、生徒は真剣に話を聞いていました。最後に生徒を代表して、生活副委員長の 荒島　希海 さんが「本日は私たちのために避難訓練を行っていただきありがとうございました。今日の避難訓練で突然起こる災害からの身の守り方を学ぶことができました。この学びを生かして、もし災害が起こったとしても落ち着いて命を守る行動ができるようにしたいと思います。」とお礼の言葉を述べました。

「災害は忘れた頃にやってくる」という言葉があるとおり、突然起こります。家族で再度話し合って、災害に対する対策や避難後に落ち合う場所・連絡手段を確認しておきましょう。